



北海道新時代 #03

北海道型地域構造の保持・形成に向けた検討会を発足

「生産空間」に住み続けられる環境づくりを目指して

### 北海道総合開発計画における「生産空間」の位置付け

北海道の強みである「食」や「観光」などの産業を担っている「生産空間」\*1は、北海道の主に地方部に広域に存在しています。その地方部の集落形態は、人々が分散して生活する散居形態が主となっており、他の都府県とは大きく異なっています。

北海道の生産空間は、主に農業・漁業に関わる場として、わが国の食料供給に大きく貢献するとともに、観光その他の多面的・公益的な機能を提供しています。しかし、今後、人口減少や高齢化の急速な進行により、生産空間の維持が困難になり、将来、北海道の強みを提供できなくなるおそれがあります。

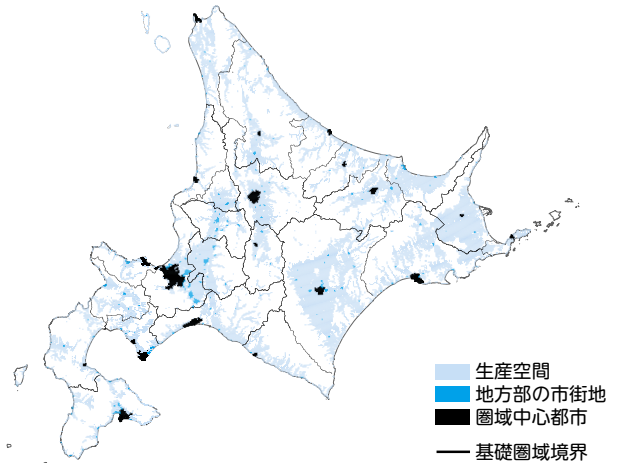


図1 「生産空間」の分布状況

※基礎圏域等は、主な通院先、入院先に着目した場合の地域の結び付きの例。設定条件により圏域は変わり得る。  
(設定例の詳細等については国土審議会北海道開発分科会計画部会 第2回 (H27.3.26) 資料2 p.9-10参照)

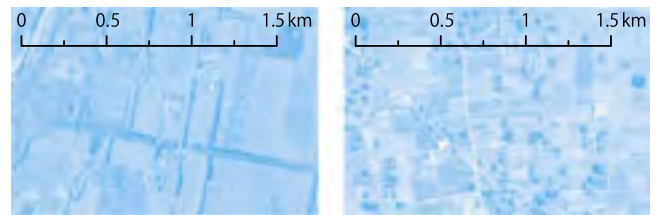


図2 散居形態のイメージ (集落の74%が散居型\*)

写真：NIT空間情報(株)  
※出典：竹内慎一 (北海道立総合研究機構北方建築総合研究所)「北海道の集落の実態分析による地域防災力に関わる評価指標の検討」地域安全学会論文集 (14) ,pp37-46,2011-03.

国土交通省北海道局参事官  
国土交通省北海道開発局開発監理部開発計画課、  
開発調整課、開発調査課、開発連携推進課

※1 生産空間：主として農業・漁業に係る生産の場（特に市街地ではない領域）を指す。生産空間は、生産のみならず、観光その他の多面的・公益的な機能を提供している。



名寄周辺モデル地域で初めての検討会を開催

平成29年度は、上記3圏域において、その地域の特性や課題・ニーズ等を踏まえて、生産空間を支えるために、今後重点的に取り組む施策の方向性等についての検討を行っています。

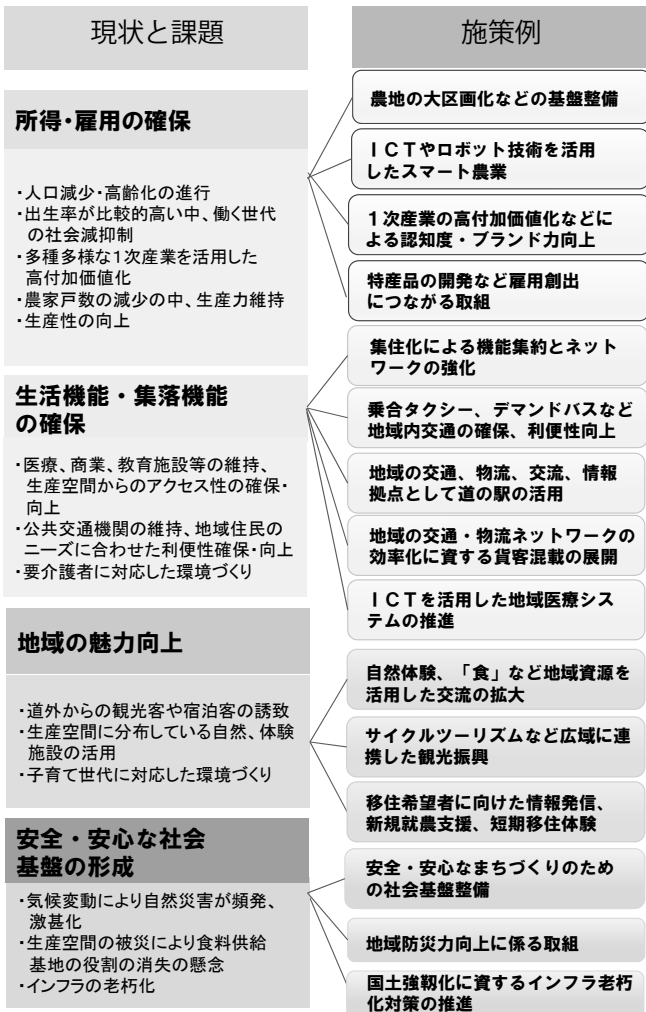
平成29年11月6日、名寄市の駅前交流プラザ「よろな」で、3圏域では初めてとなる第1回「名寄周辺モデル地域圏域検討会」を開催しました。



写真1 名寄周辺モデル地域圏域検討会

表1 名寄周辺モデル地域の第1回検討会出席者（敬称略）

所属	氏名
日本大学 特任教授	石田 東生
名寄市立大学 保健福祉学部 教授	瀬戸口 裕二
美深町観光協会 事務局長	小栗 卓
株式会社 DKdo 代表取締役	黒井 理恵
三井不動産株式会社 社会・環境推進室 室長	杉本 健一
北ひびき農業協同組合 地区筆頭理事	中山 義隆
名寄商工会議所 会頭	藤田 健慈
北星信用金庫 本店 地域支援部長	森 茂樹
名寄市 市長	加藤 剛士
士別市 市長	牧野 勇司
剣淵町 町長	早坂 純夫
下川町 町長	谷 一之
美深町 町長	山口 信夫
北海道 上川総合振興局 局長	渡辺 明彦
国土交通省 大臣官房審議官（北海道局担当）	柳屋 勝彦
国土交通省 北海道局 企画調整官	石川 伸
北海道運輸局 交通政策部 計画調整官（代理）	高橋 秋彦
北海道運輸局 旭川運輸支局 支局長	佐々木 求
北海道開発局 局長	和泉 晶裕
北海道開発局 開発監理部 次長	倉内 公嘉
北海道開発局 旭川開発建設部 部長	樺澤 孝人



### 具体的な取組イメージ

GPSを利用したスマート農業の導入

チョウザメを活用した地域振興（美深町）

道の駅間での産品の輸送・相互販売実験イメージ

貨客混載バスを活用した買物支援実験イメージ

広域連携によるサイクリングイベント

沿道の景観向上に向けた花植え活動

移住希望者への情報発信

地域防災力向上（住民避難訓練、防災セミナー）

図6 ディスカッションの際の基礎資料の一つ「名寄周辺モデル地域の生産空間を支える事例の取組イメージ」

当日は、国土交通省北海道局からの趣旨説明の後、日本大学の石田特任教授から「生産空間の意義と課題」と題してご講演をいただきました。続いて、事務局からの資料説明の後、「名寄周辺モデル地域の地域構造の課題、施策の方向性について」をテーマとしてディスカッションを行いました。

検討会を通じて、各出席者が地域の特性や課題・ニーズ等を共有しました。また、地域の取組について、各出席者から、地域づくりに関わる人材の育成、農業法人による新規就農者の受け入れ、物流における貨物の集積、積雪寒冷地の強みを活かした観光振興など、幅広いご意見をいただきました。



写真2 日本大学石田特任教授のご講演

### 十勝南モデル地域でも第1回検討会を開催

名寄周辺での検討会に引き続き、平成29年11月22日、更別村の地域創造複合施設地域創造センター（十勝さらべつ熱中小学校）で第1回「十勝南モデル地域圏域検討会」を開催しました。

当日は、名寄周辺と同様に、趣旨説明及び日本大学石田特任教授のご講演等の後、「十勝南モデル地域の地域構造の課題、施策の方向性について」をテーマとしてディスカッションを行いました。



写真3 十勝南モデル地域圏域検討会

各出席者からは、IoT<sup>※2</sup>などを活用したスマート農業の推進、道の駅の商品の付加価値向上、移住者も含めたスキルのある人材の確保、経営や観光を担う人材の育成、魅力のある雇用の場づくりなどの幅広いご意見をいただきました。

### モデル圏域での結果を踏まえ、他地域での展開を検討

今後、平成30年2月には、釧路沿岸モデル地域においても第1回検討会を開催する予定です。

また、具体的な検討を進めるため、必要に応じて、検討会の下にワーキングチームを設置し、地域の課題やその解決に必要な施策などについて、関係者のご意見も伺いつつ、検討を行う予定です。

今年度中には、名寄周辺モデル地域において第2回検討会を開催し、いただいたご意見をもとに、今後重点的に取り組んでいく施策をとりまとめる予定です。

来年度も、モデル地域で検討会を開催する予定です。その後、検討した成果を全道に発信するとともに、モデル的な3圏域での検討結果を踏まえて、他の地域での展開について検討していきます。

表2 十勝南モデル地域の第1回検討会出席者（敬称略）

所属	氏名
日本大学 特任教授	石田 東生
帯広畜産大学 環境農学研究部門 教授	仙北谷 康
帯広信用金庫 地域経済振興部長	秋元 和夫
北海道更別農業高等学校 教頭	川嶋 修一
広尾漁業協同組合 女性部連絡協議会 会長	城山 美津枝
ナウマン温泉ホテル アルコ 236 支配人	菅原 政成
中札内村観光協会 会長	豊岡 保行
大樹町地域おこし協力隊	中神 美佳
十勝バス株式会社 事業本部長（代理）	長沢 敏彦
帯広市 政策推進部長（代理）	安達 康博
中札内村 村長	森田 匡彦
更別村 村長	西山 猛
大樹町 町長	酒森 正人
広尾町 町長	村瀬 優
幕別町 町長	飯田 晴義
北海道 十勝総合振興局 局長	梶田 敏博
国土交通省 北海道局 企画調整官	石川 伸
北海道運輸局 交通政策部 部長	齊藤 敬一郎
北海道運輸局 帯広運輸支局 支局長	藤田 雅博
北海道開発局 開発監理部 次長	倉内 公嘉
北海道開発局 帯広開発建設部 部長	河畑 俊明

※2 IoT  
Internet of Things。あらゆるものがインターネットを通じてつながることによって実現する新たなサービスやビジネスモデル、またそれを可能とする要素技術の総称。